

令和5年度 森林環境学習推進事業

「生き生きウインターキャンプ」 事業報告

- 1 趣 旨 森林等の豊かさを体感できる自然体験活動を通じて、児童生徒の森林環境への興味・関心を高め、豊かな情操を育むとともに異年齢集団による共同活動等により自主・自立の心や生きる力を育む。

※SDGsの17の持続可能な開発目標のうち、関連する個別目標



4.質の高い教育をみんなに



5.ジェンダー平等を実現しよう



15.陸の豊かさを守ろう



17.パートナーシップで目標を達成しよう

- 2 主 催 大分県教育委員会

- 3 期 日 令和6年2月17日（土）～18日（日） 1泊2日

- 4 会場 大分県立香々地青少年の家

〒872-1202 豊後高田市香々地5151番地

TEL 0978-54-2096 FAX 0978-54-2152

- 5 参加者 県内の小学4年生から小学6年生までの児童生徒21名
(小4：3名 小5：4名、小6：14名)

- 6 活動プログラム

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	
2月17日				受付 出会いの集い 時間割、計画立案			昼食 (持参 弁当)	〈班ごと〉 テント設営、買い出し、夕食、たき火、振り返り、自由時間を設定										就寝 ソロテント	
2月18日	起床	〈班ごと〉 朝食、テント片付け、昼食、鍋点検、自由時間を設定					振り返り 発表 準備	別れの 集い 解散											

香々地青少年の家にある森や施設外に出て活動し、野外炊飯やソロテント泊を実施した。それぞれの班で食事の計画を立て、決められた金額の中で計画的に買物をすることや真冬の寒さを体感しながら、テント泊を体験した。班での活動を基本とし、紙に書かれた活動内容を時間内で実施。仲間と話し合う場面を設定し、互いに協力しながら自分の役割を果たしていく機会を設け、自然の中で子どもが自主的・自発的に取り組むことができるようにした。

<1日目> 出会いと交流 ~仲間づくり~

☆活動の様子

- ・アイスブレイクとしてじゃんけんをしながら、参加者の緊張感をほぐし、互いの距離感を近づけた。その後、自己紹介や班での役割分担を話し合った。
- ・タブレット端末で広告を見ながら決められた金額で食材を選んだ。仲間と意見を出しながら食事内容を決めた。
- ・スーパーへ買物に出かけ、必要な食材やお菓子を購入し、互いに荷物を持って協力する姿が見られた。
- ・宿泊は各自でソロテントを設営。初めて設営する参加者もいて、職員の説明を聞き、仲間と声を掛け合いながら取組めた。
- ・野外炊飯では班ごとに調理を行った。メニューはカレーライスや鍋、ケーキを作る班もあった。冷水で野菜を洗い、水の分量を確認しながら調理した。
- ・自由時間は、森の中で鬼ごっこをしたり、星空の下でカードゲームや談笑したりする様子が見られた。石や木っ葉を集めて、たき火の準備をしながら過ごしていた。



☆指導のポイント

- ・参加者の不安を軽減できるように、じゃんけんに取り組んだ。気軽にできるじゃんけんで、集団に馴染めるようにした。勝ち負けを実感させることやあいこで相手と気持ちを合わせることで、和やかな雰囲気を作ることができた。
- ・班ごとの食事計画では、貸出しできる調理器具を提示したり、タブレット端末を渡したりして、各班で自主的にメニューが決められるように支援した。また、およその調理時間を伝え見通しを持たせた。
- ・各活動で係が責任を持って取組める場面を設定し、責任感や所属感を持てるように工夫した。

- ・1日目のふりかえりの時間にたき火をしながら、仲間と協力できたことや翌日の目標をしおりで確認し記入させた。

<2日目> 自然の中での活動 ～森で野外炊飯とキャンプのまとめ～

☆活動の様子

- ・朝食は各班で料理を実施。昨夜の残り物を温めたり、ジャーマンポテトやベーコンエッグ、たまごスープを作ったりする班もあった。朝日を見ながら食事する様子もあった。
- ・テント片付けや撤収では、各班担当の職員の説明を聞き、短時間で取組めた。テントについての朝露をぞうきんで拭き取り、仲間と声を掛け合って片付ける様子もあった。
- ・別れの集いの感想発表では、参加者全員が楽しかったこと、うれしかったことや成長したことなどを発表した。
- ・学生サポーターにサプライズで寄せ書きメッセージをプレゼントした。



☆指導のポイント

- ・できるだけ子どもたちに料理の手順を考えさせ、調理に必要な用具の場所や用具の交換、使用方法など少ない言葉かけで支援した。また、子ども同士がつながるような言葉かけを行った。
- ・活動に使った用具の片付けは、活動係を中心に取組ませて、仲間と協力できるような言葉かけを行った。テントのたたみ方のポイントを指導者が実演したり、片付け場所を明確に指示したりすることで、子どもたちが自主的に行動できるようにした。
- ・感想発表では楽しかった活動やキャンプで成長できたことなどをしおりで振り返らせた。また、職員や大学生サポーターと言葉のやりとりをしながら感想発表の準備をさせたことで、自分の考えや思いを発表できた。

7 参加者の声

(子ども)

- ・1泊2日を通して思ったことは、決まった金額で材料を買い、料理を作るというのは難しかったです。班の皆が意見を出してくれたので、決められた金額で買物もでき、料理も楽しくおいしくできました。
- ・自然の過酷さや仲間の大切さ、その場その場に応じた行動など色々学ぶこともできたし日常生活では感じられないことが体験できた。
- ・食材の買物を仲間と考えているとき、何の食材を買うか、どんな風に作るのかなど、みんなで考えるのがすごく楽しかった。
- ・葉っぱや木の枝を集めるのが大変だったけど、夜に暖かいたき火ができてよかったです。

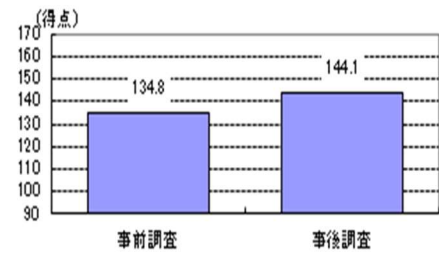
(大学生サポーター)

- ・この2日間で、子どもたちの吸収力に驚かされました。普段、料理をしないとっていた子どもでも、5分後にはコツを覚えて効率よく調理できていた。小学生の笑顔と元気にとっても癒やされました。
- ・子どもたちが自分で考えて積極的に行動できていて、とてもうれしい気持ちになりました。
- ・初めてウインターキャンプに参加しました。子どもと関わる中で子どもにも様々な個性があって、みんなをまとめるのが大変でした。けど、子どもたちと同じ時間を過ごせて楽しかったです。

6 成果

- ・参加者アンケート（IKR 評定）では、心理的社会的能が 4.5 ポイント、徳育的能力が 2.3 ポイント、身体的能力が 2.6 ポイント、生きる力は 9.3 ポイント向上した。
- ・グループ内で役割を明確にして、仲間と共に協力したり、自分の力を発揮したりする場が増えた。
- ・仲間と話し合いをする中で、意見を言ったり受入れたりしながら自律や協調性、思いやりの心が育まれ、生きる力の向上につながったと考えられる。
- ・カードに書かれた活動や時間を守り、各班で活動の優先順位を決めたり、自由時間を設定したりしながら時間を有効活用して過ごすことができた。
- ・暖をとるための木っ葉集め、たき火をしたことで自然の素材を使い活動できることを子どもに気づかせることができた。また、サマーキャンプで竹を使ったいかだづくり、枯れた木々を集めて野外炊飯の火起こし、オータムキャンプで竹を使った竹飯づくりなど、3回のキャンプを通して森林の恩恵を受けて、自然を活用した体験ができた。
- ・学生サポーターと事前にミーティングを行い、事業実施の心構えや子どもとの関わり方など事前研修をしたことで、学生の不安を解消できた。
- ・近隣市町村の小学校にチラシの配布、メールでの配信などの広報活動を行い、活動内容に興味関心を促すことができ、50名以上の応募があった。

生きる力の変容



7 課題

- ・気温や心身の成長段階を熟考し、買物の設定金額、おにぎりの配給や布団・毛布の貸出しなど、参加者にとって挑戦する難易度を高く設定する必要があった。
- ・班行動でキャンプ用具一式の貸出しと返却に取組ませた。計画以上に時間を費やしたため、職員を用具場所に配置する必要があった。用具場所が分かるように、地図の作成なども必要と考える。
- ・県内の児童や生徒に多くの自然体験活動が提供できるように、事業の目的、内容、魅力を学校や近隣市施設等に広く周知・広報活動をして、新規参加者の開拓が必要である。